



カケハシ・プロジェクト（米国） イノウエ・プログラム招へい第1陣

1. プログラム概要

【目的】

米国カリフォルニア州のロヨラ・メリーマウント大学の大学生が来日し、学校交流やホームステイ、平和学習を通じて日本社会、文化、歴史について理解を深めるとともに、日米関係の絆を強化し、日本の魅力を積極的に対外発信してもらうことを主目的として実施しました。本プログラムは米日カウンシルとの連携により実施しました。

【参加者】 米国カリフォルニア州ロヨラ・メリーマウント大学（LMU）の大学生及び学校関係者
計 16 名

【訪問地】 東京都、広島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2月15日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、
渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】 講義「日本と国連」、日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

2月23日（金曜日） 羽田空港より入国
【オリエンテーション】
2月24日（土曜日） 東京都から広島県へ移動
【対面式・ホームステイ】 広島県山県郡北広島町 4 家庭
2月25日（日曜日） 【ホストファミリー歓送会】
【視察】 広島平和記念資料館
2月26日（月曜日） 【視察】 厳島（宮島）
【視察】 広島平和記念公園 被爆建物・被爆樹木めぐり
【聴講】 被爆体験伝承者講話
2月27日（火曜日） 広島県から東京都へ移動
【視察】 麻布台ヒルズ
【表敬訪問】 在京米国大使館
2月28日（水曜日） 【学校交流】 上智大学

【視察】パナソニックセンター東京
 2月29日（木曜日） **【表敬訪問】外務大臣政務官 穂坂 泰 氏**
【視察】東京国立博物館
【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
 3月1日（金曜日） **【視察】明治神宮・原宿（日本のポップカルチャー）**
【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
【交流会】米日カOUNシル（パネルディスカッション）
 羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
2月24日【ホストファミリー対面式】	2月25日【ホストファミリー歓送会】
	
2月26日【視察】厳島（宮島）	2月26日【聴講】被爆体験伝承者講話
	
2月27日【表敬訪問】在京米国大使館	2月28日【学校交流】上智大学

	
2月29日【表敬訪問】外務大臣政務官 穂坂泰氏	3月1日【視察】明治神宮
	
3月1日【報告会】	3月1日【交流会】米日カウンシル（パネルディスカッション）

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

訪日プログラムで特に印象に残ったのは、ホームステイ、パナソニックセンター東京、広島平和記念資料館、平和記念公園への訪問でした。

ホームステイを通じて、日本の地方とそこに暮らす家族の社会的側面を理解することができました。エンジニア（専攻分野）としてパナソニックは彼らが生み出す未来の技術や、その製品を作る目的などを知る上で大変興味深かったです。そして平和記念資料館を見学し平和記念公園ツアーに参加したことで、原爆投下が長年に渡り日米両国だけでなく日本国民にどのような影響を与えたかについて、私たちが人づてに聞いたり、学校で教えられたりするものとは大きく異なる視点を得ることができました。

◆ 大学生

プログラムのスケジュールがとても計画的に準備されていて、すべてが時間通りに実施されているのが印象的でした。

様々な日本の文化や歴史に触れることができたこと、種々の活動が魅力満載で相互に影響し合う「インタラクティブ」なものであったことも気に入りました。特に広島でのホームステイが一番楽しかったです。日本の人々とより深いつながりを共有できました。

◆ 大学生

訪日プログラムの中で特に印象的で思い出深かったのは、上智大学での学生交流と北広島町でのホームステイです。上智大学の学生たちと会って彼らの大学生活を理解することは、異文化の価値観を学び、新しい場所で人々との絆を築く上で非常に示唆に富むものでした。

ホームステイにはとても感動しました。なぜなら、北広島町での生活がどのようなものかを直接体験することができただけでなく、言葉や文化が違うにもかかわらず、たくさんの愛と優しさで溢れた家族に迎え入れてもらえたからです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流校職員

本学学生と LMU 学生が積極的に楽しそうに交流する様子を目の当たりにできたのは大変嬉しかったです。特に LMU の学生のアイスブレイクはあっという間に盛り上がる術を知っているようで、留学生受入などを担当する部署として大変参考になりました。また、LMU の学生の本学に対する興味、関心が高く、受入れるこちらにも有意義な時間を過ごせたことに感謝いたします。

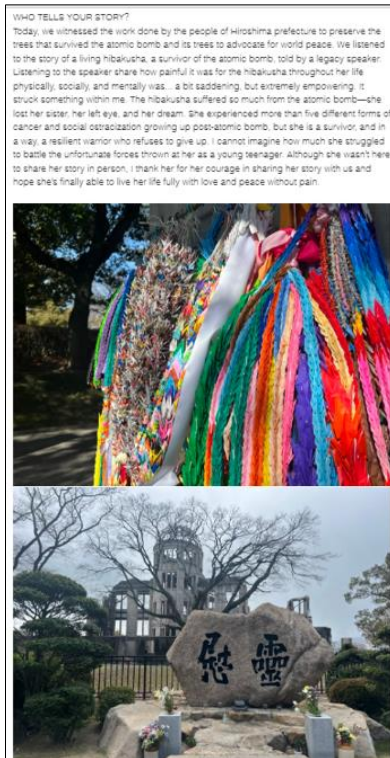
◆ 交流校学生

初めて会った日のアイスブレイクセッションが印象に残っています。アイスブレイクでダンスをするのは初めてで面白く、楽しかったです。アメリカ人なら誰でも踊れるダンスがあるということと、LMU 学生のノリやダンスのうまさから、アメリカ人ならではの社交性、普段から皆で踊る機会が多いのだなと感じました。またアイスブレイクの時にまとめてくれる子や司会者はいましたが、その子たちに全て任せるのではなく、皆で場を作り上げている印象でした。側に居る人が小さい声で助けるだけではなく、遠くにいても大きな声で声をかけあっていて素敵だと思いました。LMU の学生でない私も何が起きているのかがすぐ分かって、会話にも入りやすくて良かったです。

◆ ホストファミリー

私たち家族の英語力は乏しかったのですが、一緒に遊ぶ活動を通して交流を深めることができました。心に残るエピソードとしては、熊笹を使った草笛で、参加者全員（4 名）が、吹くことができるようになり、みんなで大喜びしたことです。我が家の子どもたちの異文化・外国に対する興味が高まりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）



2024 年 2 月 26 日（Facebook 等）

今日、私たちは、広島県の人々が世界平和を訴え、原爆の被害に遭った木々やその原木を保存する活動を直接この目で見ました。私たちは、実際に被爆された方から語り継がれた伝承者の方から話を聞きました。被爆者がその生涯を通じて身体的、社会的、精神的にどれほど苦痛だったかを語る伝承者の話を聞くのは、少し悲しいことでしたが、非常に力づけられました。それは私の中では衝撃的なことでした。被爆者は原爆で大きな苦しみを負い、妹を失い、左目を失い、夢を失いました。彼女は原爆投下後の成長過程で、5 種類以上の異なる癌と社会的疎外を経験しましたが、生き続けることで、ある意味、諦めない立ち直りの戦士のように感じました。10 代の頃に彼女に投げかけられた不幸な力と戦うために、彼女がどれほど苦労したか、私には想像もつきません。被爆者の方は私たちに自身の経験を直接伝えるためにその場にはい



2024 年 3 月 12 日（Instagram）

Tomodachi イノウエ・プログラムにおける日本滞在を振り返ってみましょう！日本で充実した KAKEHASHI 経験の機会を与えてくださった米日カウンシルおよび日本の外務省の皆様には感謝いたします。

#kakehashiproject2023

#kakehashi2023 #kakehashiproject

なかったですが、彼女の経験したストーリーを残して私たちに共有してくれた勇氣に感謝しますし、最終的に彼女が痛みのない、愛と平和に満ちた人生を送れるようになることを願っています。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、広島県（全3グループ発表）

グループ1



【訪日中の学び】

日本社会の至る所で他者への尊重と配慮が見られました。特に家族、コミュニティと環境を大切に、言葉が通じなくても真心で交流しようとしてくれました。また、日本食の豊かさには目を見張るものがあり、食材そのものを大事にし、一緒に料理を作る楽しさ、そして盛り付けの美しさといった要素が見られました。

【プログラム中の学びを今後どう活かすか】

広島での平和学習に触発され核兵器への意識が高まりました。米国政府が原爆投下を公式に謝罪していないことも問題だと感じました。私たち米国人は未来の平和を築くために過去に何があったかを十分に理解することが大事だと実感しました。

【アクション・プラン】

グループ全員で3～5月の間に、同大学コミュニティ向けに、ロヨラ・メリーマウント大学（LMU）のグローバルポリシー研究所と協力してウェブサイトを作成し、被爆者についての認識を広めるため、被爆者の体験・証言や日本社会への永続的な影響の現実を共有します。反核意識を高め、結果的に世界平和を提唱するような成果を見込んでいます。

また、先の大戦の記憶を薄れさせないようにマンザナー強制収容所への寄贈を目的として少なくとも折り鶴1,000羽を皆で折るブースを「Wellness Wednesday」イベントに設置します。

グループ 2



【訪日中の学び】

個人主義の米国に比べて「無私」の日本に好印象を受けました。特に新幹線で前の座席の日本人が「座席を倒していいですか?」とわざわざ聞かれたことに驚くとともに他人への配慮を感じました。また、ホームステイでは、同じ敷地内に住んで夕食は一緒に食べる家庭生活を目の当たりにし、老齢の親を大事にする家族の絆の強さも感じました。また「時間管理」の概念も新鮮でした。5分前行動、外務省訪問での分刻みで設定されたスケジュールなど、米国に持ち帰りたい発見が沢山ありました。

【プログラム中の学びを今後どう生かすか】

異国で人と接する場合、自分たちはロヨラ・メリーマウント大学のみならず米国民を代表しているので、それを常に念頭に自身の言動に気を付ける心構えができました。また日本人の感謝を大事にする行動様式から、大学の用務員さんや地域のゴミ収集の方々にも感謝をする気持ちを忘れないでいたいと思いました。

【アクション・プラン】

様々な組織が一堂に会し、それぞれのライフスタイルや文化の独自性を祝う多国間イベント「FUSION（融合）」をロヨラ・メリーマウント大学で開催します。共有スペースを設けてアート、音楽、ダンス、料理などを通して日米はもちろん異文化交流・理解を促進するというアイデアです。

大掛かりなイベントなので、資金調達や関連団体との折衝も発生するため準備から実施までに 1 年程度はかかる予定です。

私たちが今回の KAKEHASHI・TSIP（トモダチ・イノウエ奨学生）交流を通じて得た新しい文化体験を共有することで、異種文化間の差異を理解し、結びつけることができます。

グループ 3



【訪日中の学び】

日本アニメや日本映画を見ていたので訪日前もそれなりに知識はありましたし、FIFA ワールドカップで日本人客がゴミを持ち帰るといったニュースも覚えていましたが、実際に訪日し体験してみると、それ以上の発見がありました。新幹線の快適さ、時間通りの正確さ、本当にゴミのポイ捨てがない清潔な歩道。料理を作ってくれた人や生態系に感謝する「いただきます」の言葉も新鮮でしたし、環境にやさしい水素エネルギーを推進していることにも素晴らしいと思いました。言葉や文化は違ってもコミュニケーションする方法はいくらでもあることがわかったのも大きな学びです。

【プログラム中の学びを今後どう生かすか】

ホームステイで得た収穫：「言語や文化の壁があろうとも人々は交流可能」という学びを胸に歩んでいきたいです。

「折り鶴」に象徴されるような日本の被爆者と米国の日系米国人の（収容所の）経験の類似点を共有したいとも思います。

日本の先端技術（パナソニック）を視察したことで日本企業への就職も視野に入りました。

【アクション・プラン】

ロヨラ・メリーマウント大学（LMU）で同大学の学生を対象にワークショップを主催します。その中でカケハシ・トモダチ・イノウエ奨学生プログラム（TISP）を紹介するとともに、私たちが学んだ、訪日経験、留学、インターンシップ、キャリア、言語交流機会の概要を共有して今後の日米交流を活性化させたいです。

ワークショップの参加者にはアンケートを実施してどの程度実際に関心が生じたかを成果も検証します。

時期としてまずは帰国後早いうちにアクションを起こして学生に門戸を開き徐々に多くの学生をとりこんでいく計画でいます。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）